

合格率
90%
以上

特殊小型船舶
操縦士免許試験

不合格にならないように、
事前の準備をしっかりと!!

90%以上という高い合格率を誇る、
特殊小型船舶操縦士免許試験。
不合格者の傾向を知ること、
同じ轍を踏まないように準備しよう!!

2003年6月1日から免許区分の改正により、PWCを操船するためには、特殊小型船舶操縦士免許が必要となった。

多少の変動はあるものの、特殊小型船舶操縦士免許試験の合格率は、毎年90%以上。2011年度は1万4150人(予測)の新規取得者がいることから、仮に合格者を90%ちょうどとしても、免許試験の総受験者数はおよそ1万5723人。年間で1500名近くが不合格になっている計算だ。

この1500名は、なぜ不合格になってしまったのか? 実際に免許講習を行っているスクールに聞き取り調査を行ったところ、不合格者には、一定の傾向が浮かびあがってきた。最初の一步でつまずかないように、ぜひとも参考にしてほしい。

落ちるひとの傾向と対策



学科試験

スクール? 独学?

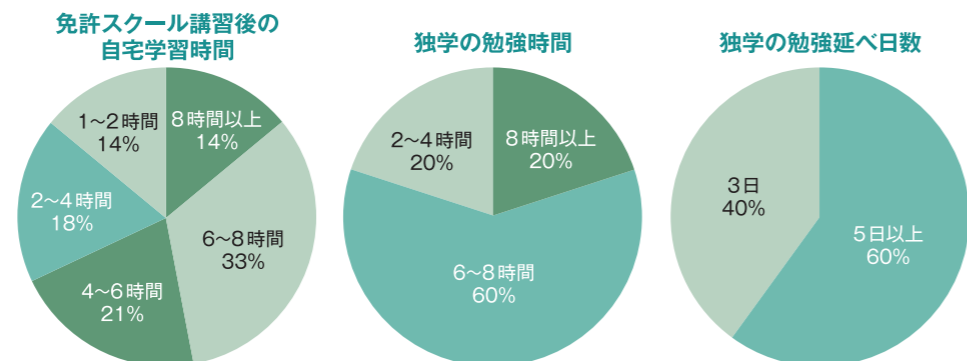
特殊小型船舶操縦士免許試験を受験するにあたり、事前に勉強・練習が必要不可欠なのはいうまでもない。

実技に関しては、日本国内の環境では独学が難しいので、スクールに通うのが一般的。しかし学科に関しては、教本や問題集を入手して独学するという方法も選択肢としてある。

ではスクールと独学は、どちらが良いのか? 勉強の“効率”という面では、圧倒的にスクールが有利だ。スクールでは経験豊かな教官がポイントを丁寧に、わかりやすく解説してくれるからだ。少しでも不合格のリスクを減らしたいなら、スクールでの受講をオススメする。

国家試験受験者アンケート

合格・不合格を問わず受験者へのアンケートでは、スクール・独学ともに自宅学習6時間以上が大半。それぐらい勉強しないと、合格は覚束ないということだ。独学で2時間程度の付け焼き刃では、不合格のリスクは大きく高まる。



※財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会調べ 期間:平成18年4月16日から6月27日 対象:全国(合格・不合格無作為)2556名

学科試験の配点と合格基準

	科目別の配点	合格基準(すべて満たすこと)
小型船舶操縦者の心得および遵守事項	120点	12問中6問以上
交通の方法	100点	10問中5問以上
運航	180点	18問中9問以上
合計	400点	40問中26問以上

学科試験は、左の3科目。注意したいのが、海上衝突予防法や都道府県条例、港則法や海上交通安全法などが出題される「交通の方法」と浮標式や天気図の記号などが出題される「運航」。どちらも暗記問題が多くなっているため、事前によく確認し、時間をかけて頭にたたき込んでおこう。

- 学科試験に落ちるひとの傾向
- 講義を聞いていない
 - 自宅で勉強していない
 - 短期間、短時間で独学

学科試験に落ちないためには
まず肝に銘じてほしいのは、「勉強しなければ落ちる」という単純なこと。勉強は試験のためだけでなく、合格した後に必要な知識を蓄える＝自分と周囲の安全を守るため、と考えよう。試験特有のひっかけ問題を回避できるので、問題集は必ずやっておくこと!!

実技試験

特に、これまでPWCに触ったことがないひとなどは、学科試験より実技試験に不安を感じるかもしれないが、そこは安心してほしい。実は学科試験よりも実技試験のほうが、合格率は高いのだ。

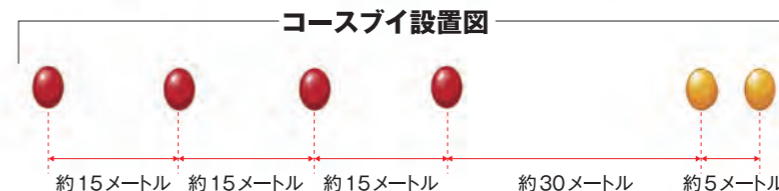
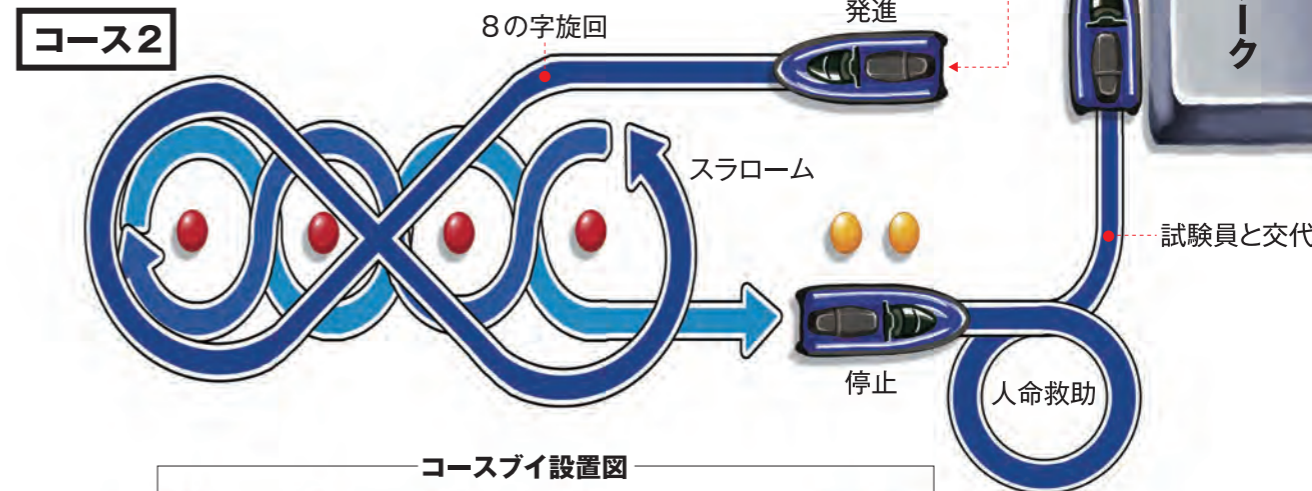
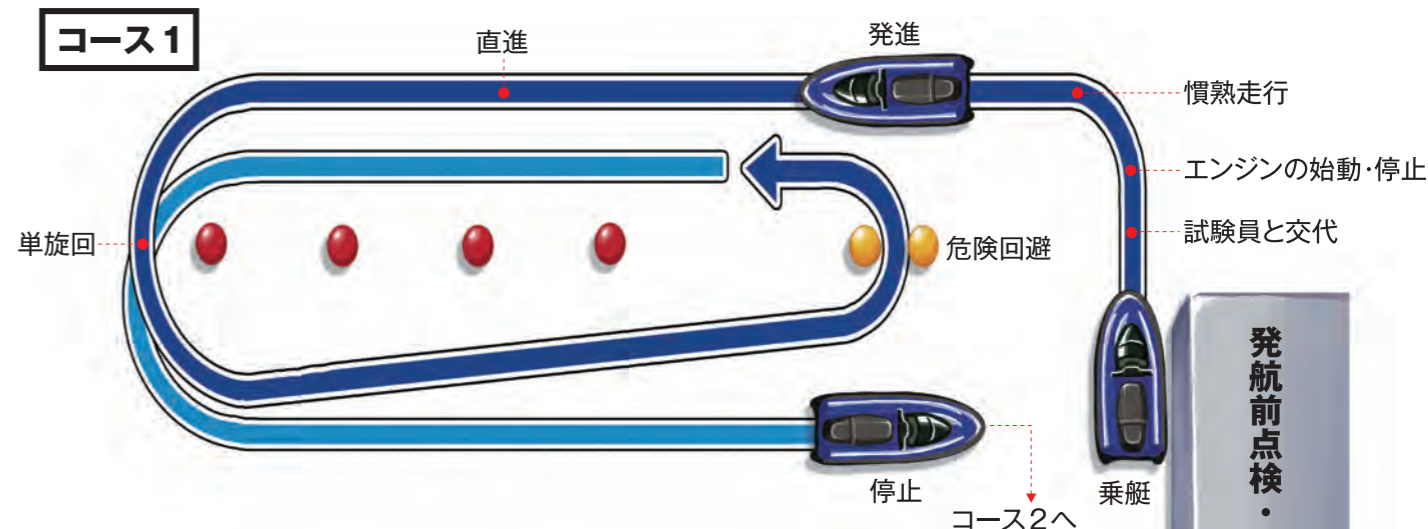
実技試験に落ちるひとは、コースを覚えていないひとが大半。スクールでしっかり学ぶだけでなく、事前にイメージトレーニングをしておくことも大切だろう。

実技試験の配点と合格基準

	科目別の配点
小型船舶の取扱い	80点
操縦	220点
合計	300点

「小型船舶の取扱い」は、発航前の点検とロープワーク。特にロープワークは、自宅に帰ってから繰り返し練習をしておくこと。「操縦」に関しては、とにかく落ち着いて、安全確認を忘れないように走ることを心がけよう。

※合格基準：成績の合計が配点合計の70%以上であること



- 実技試験に落ちるひとの傾向
- コースを覚えていない
 - 曲がるときにスロットルレバーを握らない
 - 安全確認を怠る

実技試験に落ちないためには
ポイントは、確実にコースを覚えること。イメージトレーニングをする場合はコースをなぞるだけでなく、どこで安全確認をするかなど、必要な動作すべてを頭に思い浮かべよう。そうすれば、試験で慌てずにすむはずだ。